

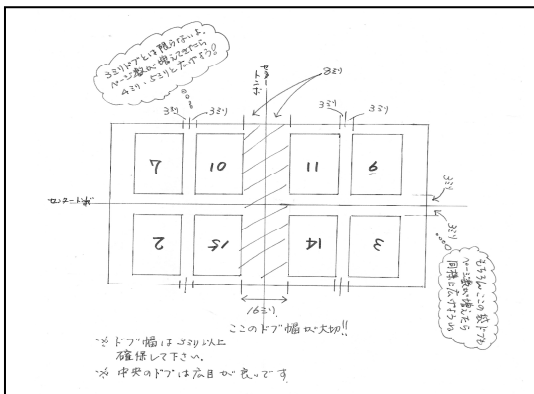
製本のススメ

Vol. 201

入学式も終り 街にはピカピカの一年生たちが歩いていますね。上級生の子供たちと集団登校する光景は微笑ましいものです。

今回も「**中綴じの面付を覚えよう！ ⑤**」のお話です

さて、前号での面付は理解していただけただけでしょうか。今回は中綴じ機械の仕組みを交えて、なんでそうなるのかをご説明いたしましょう。斜線部分は本の小口側になります。多くの方がこの斜線部分を空けずにドブが 6 ミリ(3・3)で印刷されており、後加工に手間が掛かるのみならず、製品の仕上がりにも影響が出てしまいます。では何故こんなに広げるのか？



中綴じ機械の多くは**右から左へと機械のレールが刷り本を運んでいます** 図の要領で紙を折ってみると小口側になる後半の余白(袋部分)が前半のそれよりも長くなっていることがわかります。この部分を「ラップ」と呼び、中綴じ機械の台座に置いてある**刷り本を1部づつ機械が掴まんで流れているレールの上に置いていく役割が有ります**。この時刷り本は**小口を下に、天側は右に向いた状態になり** レールに設置してある**赤い部品**によって綴じ部分へ送られるのと同時に、位置揃えを行い罫線や絵柄がきちんとそろった仕組みです。印刷で例えると「針」の役割です。では斜線部分が 6 ミリ(3・3)ならばどうでしょう？この場合小口側の前半ページ部分の余白が長くなります。小口は下ですが **天側は左に向いた状態になりますつまり針ではない部分で絵柄や**

罫線を合わせなくてはなりません。これでは製品の仕上がり精度に支障が出る場合があります。 カタログなど絵柄が合っていない場合 こんな面付をしていなんでしょうか？

<https://www.facebook.com/100050233855374/videos/1667353400182912>

上記で、動いている映像が見られます お時間がある方は一度ご覧ください

弊社 HP は <http://www.isekiseihon.com>
facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本